

カルメル霊性センター（月刊）

1997（平成9）10月号

97. 10 霊性センターニュース 115号



*lais la Reine
vous soyez bé
je voudrais être Cheresse
que vous soyez la Reine du
Ciel!!!*

霊的叡智の師テレジア

天の父の子となる

霊性センターカルメル

聖母マリアに対する幼いイエスの聖テレジアの信心

断想（120）

キリスト教信徒として（14）

聖母マリアと聖別奉献生活（3）

フォコラーレニュースより

諸々の企画の紹介

お願い

8 septembre 1897

フランス訪問中の教皇ヨハネパウロ2世は、幼きイエスの聖テレジアを今年の10月19日（世界宣教の主日）にローマ聖ペトロ大聖堂において、教会博士として宣言することを発表されました。

以下は、ロンシャン競技場において、通信社に渡されたテキストの邦訳です。

靈的叡智の師 テレジア

1、フランスにおけるこの世界青年の日の集会を終えるにあたって、私は、今年、帰天100年祭を祝う幼きイエスの聖テレジアの高い聖徳の姿を想起したいと思います。

この若いカルメリットは、完全に神の愛に捕らえられていました。彼女は神への愛への答えとして自分自身の奉獻を徹底的に生きたのです。同様に毎日の生活の単純さのなかでも彼女は兄弟愛の実行に励みました。

全ての人が信仰の輝く光で照らされることを願いながら、テレジアはイエスに倣って兄弟である罪人たちが、愛によって清められるために「彼らの食卓につくこと」を承諾しました。（原稿C参照）

テレジアは肉体の苦しみと信仰の試練を経験しましたが、それらのなかでも忠実さのうちにとどまりました。なぜなら、彼女は神が正義でありながらあわれみ深いことを知っていたからです。すばらしい靈的な知恵によって彼女は愛が神によって受け入れられることを知り、極限的な暗夜の中でも、多くの人々のためにいのちを渡された苦しむ僕（イザヤ53-12）イエスに希望をかけていました。

テレジアは、聖福音を常に自分の胸につけて持ち、非常にすぐれた判断力をもって福音のメッセージを深く理解していました。（手紙193参照）。そして、父と子と聖霊である神のいのちの中で、愛と真理が会うことを悟ったのです。非常に短い年月を巨人の歩みでもって走りぬけ、（原稿A）自分の天職は教会の心臓の中で愛となることだと悟ります。貧しく幼い子供であるテレジアは、大胆な信頼をもって父に自分を委ねる幼子の「小さい道」を歩み、彼女のメッセージの中心である靈的幼な子の態度は全ての人に示されました。

愛の真実の知恵であるテレジアの教えは、キリストの秘義の知識と彼女の個人的な恵みの体験の光り輝く表現です。彼女は神の賜物をよりよく悟り、神の無限の愛の良いおとずれを広めるために現代の男性、女性そして未来の人々をも助けることでしょう。

カルメリットであって使徒であり、奉獻された多くの人々または世間の人々の靈的叡智の師、宣教地の保護者としてテレジアは教会のなかで特別の位置を占めています。彼女の卓越した教義は、もっとも実り豊かなものの一つとして認められる価

値のあるものです。

最善の注意をもってなされた探究の後で、数知れない人々の要請に応えて、1997年10月19日（世界宣教の主日）に、ローマの聖ペトロ大聖堂において、私は幼きイエスと尊き面影の聖テレジアを教会博士として荘厳に宣言することを、喜びをもってお知らせします。

私は、このことをここで荘厳に知らせたいと思いました。若くて現代的な聖女である彼女のメッセージは、若いあなた方に特別に適していると思われるからです。福音の学び舎で、彼女はあなたがたにキリスト教的な成熟の道を開いています。彼女はあなたがたを無限の寛大さに招き、キリストの熱烈な愛の証人、弟子として、教会の「心」の中にとどまるようにと招いているのです。

現代の人々を真理といのちの道に導いてくれるように聖テレジアに願いましょう。私たちがテレジアと共に彼女が一生の間、子供の信頼をもって賛美し祈った聖母マリアに向かいましょう。

以上



天の父の子となる (マ15:45)

チブリアノ・ボンタッキョ

(カルメル修道会日本管区長)

私はこの言葉に出会うたびに、いつも Pauro の次の言葉を思い出します。

「あなたがたは……神の子とする霊を受けたのです。この霊によって、わたしたちは『アバ、父よ』と呼ぶのです。この霊こそはわたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒に証していただきます。もし子供であれば、相続人でもあります。神の相続人、しかもキリストと兄弟の相続人です」 (マ15:15-17; マ17:4:6-7)

この Pauro の言葉によりますと洗礼によって神の霊を注がれたものは、すでに「神の子」となっていますので、神を「父よ」と呼ぶ資格を与えられています。

ところが、すでに神の子となったはずの者に向かって、何故イエスは「子となる」とおっしゃるのでしょうか。それは、子供が親に似てゆくはずの者だと言うことではないのでしょうか。天の父が悪人にも善人にも太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるように、あなたがたもその子となるためにすべての人に対して善をほどこしなさい。そうすれば「神の子」となると言うことではないのでしょうか。

ルカ福音書にも同じような言葉に出会います。「あなたがたの天の父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。そうすれば、いと高き方の子となる」 (ルカ6:35-36)。

このような憐れみ深い父を持った子供も、少しずつ憐れみ深い者になっていくはずだと言うことでしょう。いつまでたっても天の父に似てこないならば、子供の資格も失ってしまうのでしょうか。次の言葉が気になります。「かの日には、大勢の者がわたしに、『主よ、主よ、わたしたちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか』と言うであろう。その時、わたしはきっぱりとこう言おう。『あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ』」 (マ17:22-23)。「その時、あなたがたは、『ご一緒に食べたり飲んだりしましたし、また、わたしたちの広場でお教えを受けたのです』と言いだすだろう。しかし主人は『お前たちがどこの者か知らない。不義を行う者ども、皆わたくしから立ち去れ』と言うだろう (ルカ13:26-27)。

やはり、イエスのように、天の父に似た者にならないなら、いくらイエスの御名

によって奇跡を行ったり、いくらイエスと飲食したり、その教えを受けたりしたにしても、洗礼を受けた者でも、神の子供と認められず、天国に迎えていただけないということではないでしょうか。



霊性センターカルメル

1. 聖書深読黙想会 原則として(奇数月)土、夕食～日、午後4時30分

(1) 上野毛聖テレジア修道院(黙想)

奥村一郎神父

連絡：吉田敦子 TEL. 03-3721-2472

2/1～2(了) 4/12～13(了), 5/31～6/1(了)

7/5～6(了) 9/22(月)～23(火)(了), 11/29～30

(2) 宇治聖テレジア修道院(黙想)

連絡：有光信子

〒663-8033西宮市高木東16-18-504 TEL. & FAX 0798-67-8132

4/5～6(了) 10/25～26

(3) 大分聖テレジア修道院(黙想)

連絡：富田恵子

〒870-11大分市上宗方1800-3 TEL. 0975-41-4012

8/30～31(了)

[註]「聖書深読法の生いたち」(奥村一郎)。オリエンス宗教研究所出版。
参加者は持参下さい。定価 1000円。下記に直接ご注文下さい。尚、3冊以上注文されれば、20%引きになります。

記

オリエンス宗教研究所

〒156 東京都世田谷区松原2-28-5

TEL. 03-3322-7601

FAX. 03-3325-5322

(4) 聖書深読箇所(通信)(原則として月の第2日曜日)です。

連絡：有光信子(住所、電話は(2)宇治聖テレジア修道院(黙想)連絡と同じ)

4/6 復活節第二主日 ヨハ20:19～31

5/11 主の昇天 マコ16:15～20

6/8 年間第十主日 マコ3:20～35

7/13 年間第十五主日 マコ6:7～13

8/10 年間第十九主日 ヨハ6:41～51

9/14 十字架賞賛 ヨハ3:13～17

10/12 年間二十八主日 マコ10:17～30▲10:17～27

11/9 ラテラン教会の献堂 ヨハ2:13～22

12/14 待降節第三主日 ルカ3:10～18

通信聖書深読の新提案

長い間にわたって、A年、B年、C年の主日の通信深読をほぼ完了しましたこと、心からともに主に感謝したいと思います。皆様のなかからも、今後何ら

かの形でけいぞくしたいという声もありましたので、ここで、新しい前向きの方法を提案したいと思います。

1. 今までの形では小生が「解説」を担当してきましたが、これからは、皆様のそれぞれのグループ（生涯養成のシスターの各グループ、有光さんのグループ、香里教会のレジオのグループなど、その他新しいグループ）ごとに独立する。
2. 各グループの中で、それぞれ、「解説」を作る。「解説」作成係りは回り番でもよい。
3. 各グループの連絡係りは、今までしてきたような冊子にして、各メンバーに送付する。同じ物を、奥村と有光にも送る。
4. 深読箇所は、各グループで選ぶ。例えば、各月の一つの主日を選ぶ。
5. まず、一年間試みてみて、次年度のために見直しをする。
6. 小グループの場合は、他のグループと合同することもできる。
7. 各グループの連絡係りは、氏名、住所、を奥村、有光にしらせる。

希望や意見あれば、遠慮なく伝える。

今までの形は初級でしたが、この方法によって、中級深読に進む事ができると思います。これについて、質問がありましたらおつたえください。

連絡：奥村師 〒611 宇治市木幡御蔵山39-12カルメル会修道院

TEL.0774-32-7456 FAX.0774-32-7457

(5) 通信聖書深読

4月から、朝日カルチャーセンター（東京新宿）が通信講座のなかに『聖書深読』を組み入れて下さることになりました。ご希望の方は下記にご連絡下さい。

連絡：小川和子、寺田紀子

〒163-02東京都新宿区住友ビル 私書箱22号 TEL.03-3344-1941

2. 聖書と念祷の集い No.6

星野正道神父（毎月1回）

- ・日 時：10月25日（土）3：30～
- ・場 所：上野毛教会・信徒会館 26号室
- ・テキスト：神との親しさ(2)『キリストの対神徳』伊達カルメル会訳、聖母文庫 500円。上野毛聖テレジア修道院（係り竹田さん）にあります。
- ・急に変更になることもありますので数回ご出席になってみてその後、継続しようとお思いになる方は連絡網に入っただければと思います。
連絡網に入っただけの方は、土曜日の午前9時30分から11時30分の間に修道院の受付に 電話 をして変更がないのをたしかめてからお出かけください。 TEL.03-3704-2171 カルメル会修道院受付 久岡
- ・その他、夏休み、冬休み、春休み などのお知らせはこの霊性センターニュースに掲載いたします。
- ・なお、この集いは前半約40分の講話と後半約45分の沈黙の祈りで構成されています。

- ・また、この集い終了後、5時30分から6時まで、全世界の人々の為に祈る神の民の人々の為に祈る神の民の祈り「教会の祈り」、
 - ・私たち一人一人を母の愛をもって見守る聖母マリアへの祈り、「サルヴェレジーナ」
 - ・主の受肉と十字架を通しての復活を賛える「お告げの祈り」、そして
 - ・希望者には主御自身の御体をいただく聖体拝領が続きます。これらにもご自由にご参加ください。
- そして大都会の中のオアシスをこの修道院で探り当てましょう。

3. はじめての沈黙の祈り

今回はじめて沈黙の祈りをはじめてみようと思っていらっしゃるかたのコースです。音楽を使ったり、体や息を意識しながらやさしく自分のこころの深みに降りて行きましょう

日時：毎月第一水曜日、夜7時30分から約一時間
10月1日(水)

ヘルパー：星野 正道(カルメル会司祭) 鳴崎神学生、浅川神学生
(カルメル会)

会 費：なし 自由献金

場 所：カトリック上野毛教会聖堂

東急 大井町線 上野毛駅下車5分

158 世田谷区上野毛2-14-25 男子カルメル会修道院

(お通夜などで聖堂が使えない時には信徒会館でいたします。貼り紙に目を留めてください)

4. 沈黙の祈りの集い

「疲れた者、重荷を負う者はだれでもわたしのもとに来なさい。

休ませてあげよう。」(マタイ11ノ28)

この聖句が心に響く方はいらしてください。

講話、説教、分かち合い等はいっさいありません。

御聖体の前でただ沈黙のうちに共に休みましょう。

担 当：山田裕於神父

日 時：6月4日より 毎月第2・4水曜日 午後7時半より

場 所：上野毛教会聖堂

(祝祭日もおこないますが、葬儀等がはりましたときは中止となります
あらかじめご了承ください。)

5. 黙想会のご案内

A. 上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

1997年度 (幼きイエスの聖テレジア帰天100周年記念)

I. 修道女の為

- ① 7月27日 (日) 夕食～8月5日 (火) 朝食 [8泊] (指導) 星野正道師 (了)
- ② 8月18日 (月) 夕食～8月27日 (水) 朝食 [8泊] (指導) チプリアノ師 (了)
- ③ 12月26日 (金) 夕食～1月4日 (日) 朝食 [8泊] (指導) 大瀬高司師

II. 一般信徒の為

- ①四旬節 2月14日 (金) 夕食～2月16日 (日) 午後[2泊](指導) 星野正道師 (了)
- ②四旬節 3月14日 (金) 夕食～3月16日 (日) 午後[2泊](指導) チプリアノ師 (了)
- ③聖週間 3月23日 (日) 夕食～3月30日 (日) 朝食[由](指導) カルメル会司祭 (了)
(1泊でも数泊でも全日程でも出入り自由、1日1回お説教があります)
- ◎④聖テレジア7月21日 (月) 夕食～7月24日 (木) 午後[3泊](指導) クリストフォロ師 (了)
- ⑤ " 8月14日 (木) 夕食～8月17日 (日) 午後[3泊](指導) 大瀬高司師 (了)
- ⑥ " 10月17日 (金) 夕食～10月19日 (日) 午後[2泊](指導) チプリアノ師
- ⑦ " 10月31日 (金) 夕食～11月3日 (月) 午後[3泊](指導) 大瀬高司師
- ⑧待降節 12月5日 (金) 夕食～12月7日 (日) 午後[2泊](指導) 星野正道師
- ⑨ " 12月12日 (金) 夕食～12月14日 (日) 午後[2泊](指導) 奥村一郎師

◎クリストフォロ師の黙想会は6月の奥村師の代わりとなります。

III. カルメル在俗者会の為 (一般信徒も参加可)

- ① 4月25日 (金) 20時ミサ～4月29日 (火) 朝 [4泊](指導) アロイジオ師 (了)
- ② 5月11日 (日) " ～5月15日 (木) " [4泊](指導) 奥村一郎師 (了)
- ③ 6月11日 (水) " ～6月15日 (日) " [4泊](指導) チプリアノ師 (了)
- ④ 10月9日 (木) " ～10月13日 (月) " [4泊](指導) チプリアノ師
- ⑤ 11月21日 (金) " ～11月25日 (火) " [4泊](指導) 星野正道師

I、II、III 申込み、詳細のお問い合わせは:

TEL. 03-5706-7355 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) (竹田)

または、080-72-09950 (竹田直通)

IV. 青年男女

テーマ: キリストのまなざしを受けて

A 東京テレジア修道院 (黙想)

- ① 5月16日 (金) 夕食～5月18日 (日) 午後[1泊又は 2泊](指導) カルメル会士 (了)
- ② 11月7日 (金) 夕食～11月9日 (日) 午後[1泊又は 2泊](指導) カルメル会士

B. 北海道男子カルメル修道院 (伊達)(男子のみ)

①5月24 (土) 夕食～25日 (日) 午後 [1泊] (指導) カルメル会士 (了)

A&Bの申込み、詳細のお問い合わせは：葉書かFAX で、青年黙想係まで

〒158 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL.03-3704-2171, FAX.03-3704-1764

C. 宇治聖テレジア修道院 (黙想)

I. 一般信徒の為 (指導者名の記載のないものには、カルメル会士による指導)

①沈黙の祈り

1. 4月26日 (土) ～27日 (日) 指導：奥村一郎神父 (了)

2. 12月6日 (土) ～7日 (日) 指導：奥村一郎神父

申込先：中尾栄作 (TEL.0726-83-0903)

②1. 6月28日 (土) 夕～29日 (日) 午後 (了)

2. 小さい聖テレジア帰天100年記念黙想会：

9月27日 (土) 夕～28日 (日) 午後 (了)

③ 召命を考える人の為 (男女)：

5月17日 (土) 夕～18日 (日) 午後 (了)

テーマ：キリストのまなざしを受けて

④ 青年 (男子) の為：1.6月14日 (土) 夕～15日 (日) 午後 (了)

2.11月15日 (土) 夕～16日 (日) 午後

④の申込：葉書で青年黙想係まで

〒611 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 TEL.0774-32-7456

II. 修道女の為

①7月28日 (日) 夕～8月6日 (水) 朝 指導：渡辺 幹夫神父 (了)

②8月16日 (日) 夕～25日 (月) 朝 指導：奥村 一郎神父 (了)

申込み、詳細のお問い合わせ：

〒611 宇治市木幡御蔵山39-12 宇治聖テレジア修道院 (黙想)

TEL.0774-32-7016

D. 大分聖テレジア修道院 (黙想)

I. 修道女の為

テーマ：“奉献生活の再発見と再出発”

――教皇ヨハネ・パウロⅡの使徒的書簡に基づいて――

8月15日 (金) 17:00 ～24日 (日)11:00 指導：カルメロ神父 (カルメル会)

申込み締切り日：8月12日 (火)

II. 一般信徒の為

① 布教の保護者幼きイエズスの聖テレジアの帰天100年記念の黙想会

② と結びの式典

① テーマ：現代人に福音を

10月2日(木)17:00～5日(日)13:00 黙想指導：カルメロ神父

② 式典

式典司式：大分司教 ペトロ・平山高明

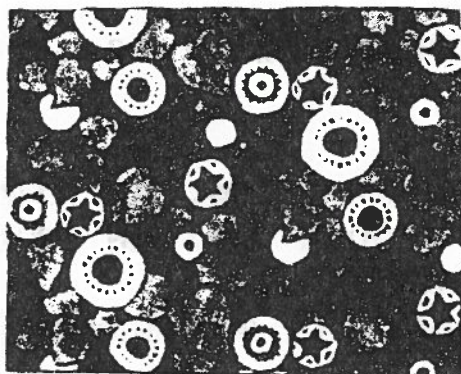
申込み締切り日：9月29日(月)

I、II、いずれも、申込み、詳細お問い合わせは下記へ：

〒870-11大分市上宗方1830-3 カルメル会修道院

Tel.0975-41-4012

(道順：J.R.大分駅下車、タクシーで^{あけがやうらあ}明礮橋を渡って信号を右へ。すぐ上の白い建物)



修道生活、司祭生活を考える若者の集い

NO. 7

この修道生活、司祭生活を考える若者の集いも皆さんのご協力で小さなあゆみをつづけております。この集いは特定の修道会へのおさそいの集まりではありません。教会生活を送って行く中で今までとはちがう生き方もあるのではないかと、思っている若者がひとりぼっちでひざをかかえているのはよくない、同じように感じている仲間と出会い、ともに祈りながらあゆんで行けたら何かが見えてくるのではないかと、ということで始まりました。もし君がそんなひとりだったらぜひ来て見ませんか。

*日時 10月26日(日) 10時から16時まで、昼食は各自お持ちください。

*対象 30才くらいまでの独身男女青年

*スタッフ カルメル会司祭 星野正道

*費用 1000円

*内容 主日ミサ、講話、質問コーナー、個人面談等

*持って来るもの 聖書、筆記用具、昼食等

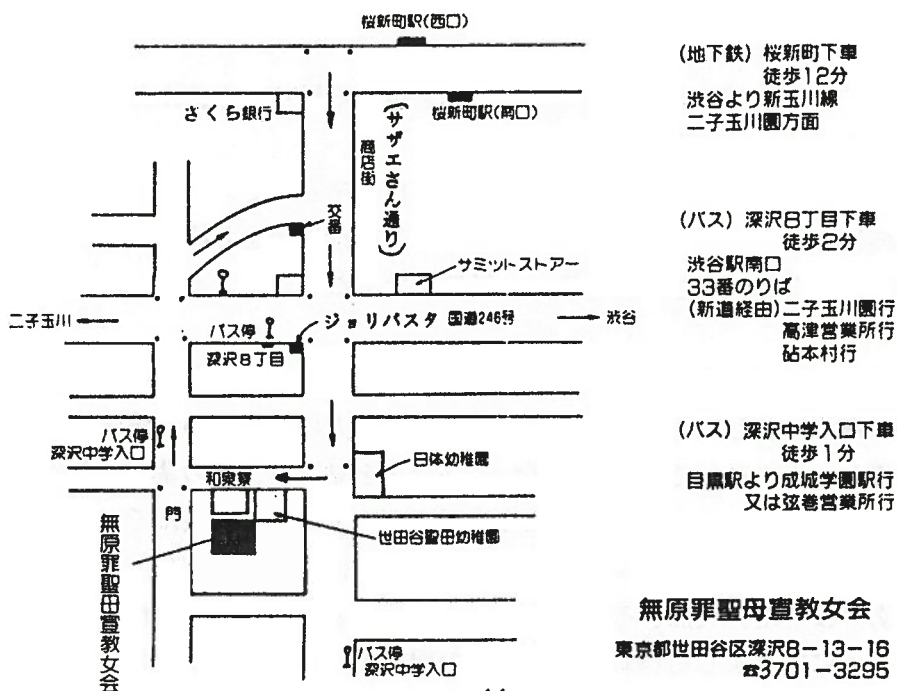
*連絡先 158 世田谷区上野毛2の14の25 男子カルメル修道会

星野正道神父 TEL03-3704-2171 申し込みの必要はありません。

*会場 無原罪聖母宣教会修道院 158 世田谷区深沢8の13の16

東急新玉川線桜新町下車

TEL03-3701-3295



聖母マリアに対する

幼いイエスの聖テレジアの信心

チプリアノ・ボンタッキョ

(カルメル会司祭)

“おお、マリア様、もし私が天の元后で、あなたが小さいテレジアでしたら、あなたが天の元后におなりになるように、私はちいさいテレジアになりたいでしょう”。テレジアは1897年の9月8日に、亡くなる3週間前に「勝利の聖母」の聖絵の裏にこの言葉を書いています。こんなに優しく美しい母を持つことの喜びと幸せを歌う言葉だとも思います。

聖女はこの喜びと幸せを何度も表しています。

“時々次の言葉で、マリア様に話している自分に気がきます。「あなたより私が幸せであることを認めざるを得ません。なぜなら私はあなたを母として与えられていますが、あなたはこんなに素晴らしい母が与えられていませんから」”(手紙116)。

“聖母は私たちほど幸せではありません”(最後の言葉：8月10日)。マリア様を母として与えられたことをこんなに幸せに思うことは、テレジアがこの恵みの大きさを深く捕らえているからでしょう。どんなに貴重な宝でも、宝よりもその宝を持っている人の方が幸せと言うことでしょうか。

素晴らしいお父さんとお母さんに恵まれたことの幸せを深く感謝しているうちに、天の母に対するこの気持ちがテレジアの心の中に芽生え、マリア体験が深まるに従って強くなって行ったでしょう。

初聖体の日にテレジアは「聖母マリアに身を捧げる祈り」を読みあげる役目を授けられました。その時、心に感じたことを書いています。

“天の母の腕のうちに身を投げかけて、自分を守ってくださるように願う幼児の様に、私は真心から御母にお話しし、御母に身をお捧げしました。マリア様もご自分の小さい花を眺め、微笑んでくださったような気がしました”

(自叙伝110)

初聖体の一年ほどまえに“不思議な病気”“悪魔がおこしたものに違いない”(自叙伝88.86)病気に苦しめられていた時にテレジアは天の母の深い愛情を体験しました。

“優しい天の母がご自分のか弱い小さな花を見守り、その茎が折れて、最早駄目になってしまうかと思われる瞬間、天の玉座から微笑んで、風を静めてくださった”(86)。テレジアが寝ていた部屋に「勝利の聖母」の御像が飾ってありました。突然、その御像の顔には“得も言われぬ愛情と優しさが漂うようになりました(94)と。特にその顔の美しい微笑みがテレジアの魂の奥底

までしみとおって、いつまでも忘れることはなかったのです。

この不思議な体験はテレジアの中に聖母に対する信頼の心を一層高めました。そして、どんな時でもその信頼の心が表れています。“心配なことや困ったことができる、すぐに急いでマリア様の方に向きます。マリア様にお祈りして、直ちに守って頂けなかったことは一度もありません。聖母は、最も慈しみ深い母親のように何時も私のために取り成してくださいます”(318)。

自分の小ささを知っていたテレジアは何時も聖母の助けを仰いでいました。修道誓願宣立の準備の時“聖母マリアは、私の婚礼の衣装の準備を手伝って下さいました(213)。

聖体拝領の準備が充分できないことを感じて、それもマリア様に依頼していました。“全ての汚れを浄め、天国に適わしい大きなテントをはって、その美しさで飾ってくださるようお願いしました”(225)。“乙女マリア、私の心を清く美しい聖体布に変えてください”(詩：25)。“私の心の中に白いホスチアが降る時、あなたの優しい子羊イエスはあなたの中にお思いになる様に”(詩：54)。

“乙女マリア、ああ、私は何と彼女を愛していることでしょうか。私はマリア様についてお説教すためだけでもどんなに司祭になりたかったことでしょうか”(最後の言葉 8：23)。テレジアはマリア様の特権についてお話したいのではなく、マリア様の極く普通の生活を強調してお話したかったようです。聖福音書に見られるマリア様の実際の生活、私たちと同じ様に信仰に生きておられたマリア様の姿を示したかった様です。そして、きっと“私共はマリア様よりも幸福です”ということ強く訴えたかったことでしょう。



断想（120）

奥村 一郎

（カルメル会司祭）

テレーズ—教会博士

聖女テレーズが、このたび、「教会博士」という、カトリック教会での名誉ある称号をうけることになりましたことは、皆様、すでにご存じの事と思います。

この八月下旬、パリーでの世界青年大会に集まった百万人の大群衆を前にして、八月二十四日（聖バルトロメオの祝日）、教皇ヨハネ・パウロ二世は、みずからそのことを発表し、十月十九日、世界宣教の日に、ローマでの公式宣言がとり行われるとともに予告されました。二千年の教会の歴史の中で、三十三人目の教会博士であり、女性としては三人目、シエナの聖カタリナ（ドミニコ会）とアビラの聖テレサ（カルメル会）につづくものです。

聖女テレーズに与えられるこのような栄誉は、テレーズ個人のためというよりも、父なる神が教会を通して教会に与えられる恵みであり、ひいては、全人類に与えられる救いの光りです。

24才という若さで帰天し書き残したいくつかの書簡風に書かれたものをまとめた小さな一冊の本が、まるで、旋風のようにひろがり、ここ百年もたたぬあいだに、地の面を全く新たに作る聖霊の力をもたらしました。二十世紀の奇跡とさえいえましょう。

その最後の息をひきとるとき、「わたしは死にません。（失われぬ）命に入ります」と言ったテレーズは、また、「わたしは、天国からたえず地上にバラの花をまきつづけます」とも言っています。キリストの愛に燃えつきたテレーズの魂の賛歌がまたさらに新しく、力強く、地の果てまで響きわたりますように。

× × ×

宇宙飛行：無重力

テレーズは、「わたしは大聖人になりたい。中途半端な聖人にはなりたくない」

と言っていました。どこか、高慢にさえ思われる言葉です。しかし、他方では、「小さいもの」、「見捨てられたもの」、「忘れ去られたもの」…になりたいと、なんどもさまざまのたとえを用いて書いています。このような、矛盾に出会うと、中途半端なわたしなどは戸惑ってしまいます。というのも、あまり、「聖徳の人」とか、「完徳の道」とか、いわれると、わたしのようなものには、遠い人、むづかしい道のように思われて、とり残されてしまいそうです。たしかに、そうなることは大切にちがいない、そのために修道生活があるのだということはわかるのですが、そうした理想めがけて突走るようにお尻を叩かれる修徳競争は、慰めや励ましになるよりも、疲れさせてしまいます。テレーズは、そのような修徳主義のゆきづまりをよく知っていました。

「愛するお姉様、どうぞ、お姉様の小さい娘のいうことをご理解ください。イエス様を愛し、愛のいけにえとなるには、すべてを焼きつくして変化させるこの愛の働きを受けるには、弱ければ弱いほど、そして何の望みも徳もなければいほどよいのです。……これがむづかしい点なのです。」（聖心のマリー修女への手紙、1896. 9. 17）

「弱ければ弱いほど」とか、「なければいほど」というのは、「限りなく弱い」「無だけしかない」ということなのでしょう。

十字架の聖ヨハネの愛弟子であったテレーズは、その徹底した「無（NADA）」のことをよく知っていたのだと思います。それも、日々、痛いほどの体験の中に。

次の聖書のことばのなかに、テレーズは「小さき道」を見出しました。

「天の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、小さいものに示されました。」（マ11:25、ルカ10:21）

この聖句を引用するとき、テレーズは「小さいもの」というところを、「最も小さい、小さいもの」と書きとっています。「小さい」という言葉を二度をくりかえしています。ちょっと小さいのではなく、ほんとうに小さい、いや「底抜けの小ささ」と言いたかったのだと思います。「大聖人」の「大」も、「小さいもの」の「小」も、どちらも突き抜けてしまうところ。たとえてみれば、上にも下にも、右にも左にもひっ張られることのない、無重力状態に游泳する宇宙飛行士のようです。

「大聖人」の大屋根も、「小さいもの」の小屋根も、みな吹き飛ばしてしまい、無限の宇宙空間を自由自在に泳ぎまわるテレーズ。

「深淵のみが深淵をよぶ」（詩42-8）

お詫びと訂正

前号（119）「無極の論理」で引用しました道元禅師の言葉で二ヶ所に誤字が

ありました。ご訂正ください。

①2行目 尊師に相逢（そうほう）せんよりこのかたは……（誤）

「尊師」→「導師」（正）

②10行目 「すでに尊師に相逢せんよりこのかたは……（正）

註：「導師に」が「尊師を」となっているテキストもありますが、ここでは、前者を取りました。ご参考までに。

II

蛭田 幼一

一九九七年五月十九日

友よ、今夜もまた、バレエの練習試合の余韻で寝られず、起き出してきて手紙を書く。生徒は若くて元気だ。こっちまで若返るようだ。君との友誼もかれこれ三十年になるな。管鮑の交わりとも、刎頸の友とも言いうるだろう。そう言っても少しもおかしくはない。夜は静かだ。何ものにも替えがたい。君が言うように、度重なる荒蕪の果てに世界はある。良い耳を、曇りのない目を、持ちたいものだ。

（筆者は聖書深読・聖書と念持の集い参加者）

キリスト教信徒として（14）

～ まとめ ～

嶋崎 浩樹（カルメル会神学生）

前回まで13回に亙って、フランスのルイス・エヴェリー神父様が書かれた「現代人の祈り」と「われらみな兄弟」という本の中から引用して皆様にご紹介してきました。今回はそのしめくくりとして、もう一度彼の言いたかったことをまとめてみたいと思います。

彼の言いたいことは、これに尽きると思います。「遠くの隣人より、近くの隣人」。つまり、どんなに遠く離れた人のことを思って多くの支援を送ったとしても、近くにいる人々に同じような支援の手を差し伸べないなら、それは偽善である言うことです。アヴィラの聖テレジアは、靈魂の城の第七の住居で次のように言っています。「時として悪魔は私どもに立派な望みを吹き込みます。それは私どもが自分にできることで主にお仕えするより、身近なことに手をつける代わりに、できもしないことを望んで、それで満足してしまう。お祈りによって多くの人を助けるということ以外には、すべての人に役立とうと考えず、ただあなたが一緒に暮らしている方々に対してそうなるようにお努めなさい。」（靈魂の城 第七の住居 第四章14参照）つまり、自分では何も手を貸す事無く、自分のすぐ近くで困っている人、手を差し伸べてほしい人を蔑ろにして、遠くの人に手を差し伸べることによってさも自分は良いことをしていると勘違いしている人がいるということです。アフリカの飢えている人たちに対して、多くの支援をすることは正しいことですし、又、人からも評価されやすいでしょう。しかし、自分の家族が飢えているのに、アフリカの飢えている人たちのために支援することは正しいことでしょうか。又、テレジアが言っているように、自分では何もしないで神に祈ることだけで、隣人のために奉仕することになるのでしょうか。そうではないでしょう。まずは、自分に一番近い人が幸せになること、そうすれば自ずと遠くの隣人にも目が向き、全世界が幸せに満たされた世界になるのです。

もう一つ、エヴェリー神父様が言いたかったことがあります。それは、イエス様をあまりにも神に挙げ奉って、イエス様の本当の姿が見えなくなっていることです。イエス様は、確かに神です。しかし、神であると共に「真の人間」です。この人間の側面についてももっと目を向けなければなりません。人間イエスこそ、私たちが目指す、究極的な人間の姿、完成された人間の姿だからです。聖書で語られるイエ

ス様の姿は、喜怒哀楽を持った人間そのものです。神殿で両替商などがたむろしていれば怒って、机などを引っ繰り返したり、親友のラザロが亡くなった時には涙を流したり、またゲッセマネの園では、その後訪れる苦難を目のあたりにして悩み苦しんでいる姿が現われています。この姿は、私たちが日常の生活において体験する事柄に他なりません。そして、自分が手本となって一番示したかったのは、弟子の足を洗う場面表れる、人よりも低い者となって奉仕する姿（弟子たちの足を洗う姿）でしょう。この姿は、エヴェリー神父様が「現代人の祈り」の中で述べているように、みせかけのやらせであったとは思われません。イエス様が私たちに教えたかったこと、それは「わたしを崇め奉って礼拝しなさい」ということではなく、「わたしが自分のみで示して教えたことを、あなたたちもしなさい」ということです。最初にも言ったように、隣人が幸せになるように奉仕すること、それがイエス様が教えてくださった「愛の掟」であり、キリスト教の中心テーマです。

今私たちに必要なこと、それはもう一度自分の信仰の原点に立ち戻ることでしょう。自分の勝手な解釈によるのではなく、み言葉が私たちに示してくれていることが何であるのかをじっくり黙想して確かめる必要があるのではないのでしょうか。その時に忘れないでほしいのは、「どのようにすれば自分のすぐ隣にいる人が幸せになるか」ということです。言うまでもなく、あなたにとって隣人がどのように幸せになるかではなく、隣人にとって、隣人がどのように幸せになるかを考えて行動することが大切です。それが、キリスト教で言う「愛（アガペー）」であり、真の奉仕につながっていくのです。そして、その「愛」は、自分にとって近い人から遠くの人へと拡がっていき、全世界が幸せになる神の国の完成へと力強く進んでいくことになるのです。

神に感謝！

（完）



『聖母マリアと聖別奉獻生活』（3）

松田 浩一 訳
（カルメル会神学生）

－1993年1月10日、アッシジの聖クララ教会に集まった隠世修道者たちに向けての教皇ヨハネ・パウロ2世のメッセージより－

ヨーロッパと世界の目がアッシジに向けられるとき、フランシスコとクララのメッセージが「清貧、平和、祈り」という三つの言葉に常によく摘要されるようです。

フランシスコとクララの模範に従うことによって、福音的清貧の道を選びなさい。「貧しいキリストを模倣する貧しいおとめとして」（プラガの聖アグネスの第二の手紙no. 18）プラガの聖アグネスに招かれたクララは、「まぐさ桶の中に貧しく置かれているキリスト、世の中に貧しく生きたキリスト、そして十字架の上で裸のままにいるキリスト」（聖クララの遺言no. 49）への愛に生きるために、彼の貧しさのうちにある栄光の主を黙想します。実に、「貧しさに従う祝されたフランシスコの言葉と模範によって、また御父の愛する御子の謙遜と光栄あるおとめマリアによって、主なる父が聖なる教会の中に造られた小さな群れ」（同上no. 46）に彼女自身が属していたことに彼女は気付きました。

それから、清貧と平和はキリストの神秘の二つの面を示しているようであります。それらは、キリストのメッセージの二つの要求であり、あなたがたシスターたちが辛抱強く調和した心のすべての一致のうちに生きる無邪気な清貧をもって福音の証しをするために呼ばれている現代世界にあって、確かなメッセージでもあります。今年の平和の日のメッセージの中に、平和の源泉として福音的清貧の精神に生きるように信者たちを駆り立てました。「清貧を通して、人は神と他者と被造物との固有な関係を成し遂げることができるのであるから、福音的清貧は平和の源泉であります」（1993年・平和の日のメッセージno. 5）。

けれども、祈り無くして平和はありません。毎日、教会はミサの中で主のこの賜物を願っています。平和に対しての人間的希望が薄れていくようにみえるとき、われわれが、より強く悪の力を感じる時、すなわち悪霊と分裂者が嫌気と心の分裂の種を巻く悪の影響を感じる時、キリストの名のうちに調和的に統一されたキリスト者は（c f. マタイ18：19-20）、いと高き全能の主への祈りのうちに、平和と善の霊、心を動かし、苦悩ではなく平和の考えを示唆する霊を切願しながら忍耐します。

このような理由のために、われわれはアッシジにきました。われわれは、平和の神に頼むためにあなた方のためにもきました。教皇はあなたがたのシスターたちに平和のための祈りの炎が薄らがないように、そしてキリストの体と血の捧げ物と一緒に祈りの香が天に上るのをやめないように、この務めをゆだねたいと思います。

私は、あなたがたに私の教皇職をあなたがたのやむことのない祈りによって支え続けてもらいたいのです。そうです。教会のマリア的側面の特別な形である祈る人を現す祈りによって。事実、クララと彼女の会のシスターたちに示したフランシスコの言葉に従って、教会と共にあなたがたは、マリアの神秘の「イコン」であります。

聖クララのように、神聖な靈感によって、あなたがたは最も偉大な王様の娘・僕とされ、自分自身の配偶者として聖霊を受け取り、聖なる福音の完全さに従って生きることを選びました。絶えざる燃えるような執り成しのうちにみられるマリア様に倣いなさい。カトリックのカテキズムがわれわれに思い出させるように、「マリア様は完全な祈る人で、教会の姿でもあります。われわれが、彼女に祈るとき、われわれはすべての人を救うために御子を送られた御父の御計画に対して彼女と共にあります。それで、われわれは彼女と共に祈ることができますし、彼女に対して祈ることができます。教会の祈りは、マリア様の祈りによって支えられていますし、そして希望のうちにマリアと一致されています」（カテキズムno. 2679）。そうです。今このときも、平和のための祈りと希望は、天の元后、われらの希望であるマリア様によって支えられています。



フォコラーレニュースより

いちばん先になりたい者は、すべての後になり、
すべての人に仕える者になりなさい。

「ある日、イエスは弟子たちに『途中で何を議論していたのか』とお尋ねになった。彼らは黙っていた。途中だれがいちばん偉いかと議論し合っていたからである。イエスが座り、十二人を呼び寄せて言われた。『いちばん先になりたい者は、すべての人の後ろになり、すべての人に仕える者二なりなさい。』」（マルコ9：33-35 参照）。

ここでは、いちばん偉くなりたいと望む使徒たちの姿が描かれており、キリストがもたらされた御国を、彼らがどれほどこの世的にかんがえていたかが読み取れます。

一方、これに対するイエスの答えは、はっきりとした、画期的なものです。

仕えること、行いをもって仕えるところに、キリストの弟子の本当の偉さがあるのです。

先のイエスの言葉に出てくる「仕える者」とは、具体的な奉仕を意味し、もとは「食卓で給仕する」という意味を持っていました。

イエスは権威ある方でありながらも、決して支配者のような態度は取らず、使徒たちにたいしても、仕える者となられました。

イエスが使徒たちに求められておられる「奉仕」とは、すべてを与える覚悟のある愛、イエスのように、自分の生命すらも与える準備ができていう愛です。実際、初代教会では、イエスの死に至るまでの受難は、彼がお捧げになった「最高の奉仕」だ、と考えられていました。

いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、

すべての人に仕える者になりなさい。

このように言われたからといって、イエスは、責任ある立場を望むことを否定しているわけではありません。そうではなく、キリスト者の共同体の中では、人々を導く立場にある人も、奉仕する心で、その使命をはたすことが必要だと教えておられるのです。

初代教会の頃から、この言葉は、共同体の責任者にむけられたものと考えられていました。権威ある立場の人は、他の人に命令したり、支配しようとする誘惑に陥りやすいからです。

しかしイエスは、支配欲や野心、搾取の上に立てられた方針や統治体制は、どん

なものも、お許しになりません。「権威」が「権力」に姿を変えてはならないからです。

マルコの福音書の中で、この言葉は、皆に向けられた教えとして語られています。責任ある立場の人に限らず、すべての人にあてはまるものです。

誰もが、奉仕することを、自分の生活の土台とすることができます。奉仕する時、私たちは回心を求められ、本当に世の流れに逆らって生きるよう招かれますが、これこそ、生活の基準となる生き方です。

教会も、キリスト者に対してまた他のすべての人々に対しても、奉仕する存在です。

いちばん先になりたい者は、すべてのひとの後になり、

すべての人に仕えるものになりなさい。

では、このみ言葉をどのように生きることができるでしょうか

果たすべきことをすべて、奉仕の心で行いましょう。私たちは、神の御国を広げるために働くよう招かれています。それも、家庭や社会の中で奉仕を生きてこそ、可能になるのです。

そして、出会う隣人が部下であっても、上司であっても、対等の立場の人でも、その一人一人の中にキリストを見るなら、奉仕の態度で接することが、より易くなるでしょう。私たちが、他の人たち、特に最も小さな人たちにしたことを、キリストはご自分にされたこととして受け取られます。

ですから、いつも仕え、すべての人に仕え、よく仕えるようにしましょう。私たちがキリスト者として、見返りを期待せずに奉仕を生きることにより、傲慢と支配欲あふれるこの世を、神様がくつがえしてくださることを願いましょう。

その時、人々はより深くキリストを理解し、福音の革命がもたらす実りは、一層光り輝くでしょう。暗いイメージのあった十字架は、その姿を変え、人類の救いのだいかとしてだけでなく、人間の自由を象徴するものとして、人々の目に映ることでしょう。

私たちの前には、このように全面的で心ひかれる生き方が、準備されています。これを逃さないようにしましょう！

キアラ・ルービック

—み言葉の体験—

なぜ神は今日私たちをここへ導かれたのか

タスマニアのポート・アーサーで、精神異常者が銃を乱射して多数の人々が犠牲者となった時に、休暇をすごしていたオーストラリアの夫婦モーリ

ンとパット・コインは、この恐ろしい虐殺の目撃者となりました。そのような異常な状況を経験して、彼等がどのようにして福音を生きようとしたかを、モーリンは語ってくれます。

大虐殺があった日、私たちは夜遅く、ホバートのホテルに連れ帰ってくれるもう一台のバスに乗り込みました。私たちを乗せてきたバスの運転手は殺されてしまったのです。バスには殺された女性客の妹と、七〇歳になるその母親が前の席に座っていました。私は彼女たちがそこにまったく静かにかにじっとしているのを見て、大変ショックを受けました。ワタクシは、彼女たちが特別な配慮を受けて、私とは別に保護されているものとばかり思っていました。パッドと私は亡くなった人々のためにロザリオの祈りをしました。でも、依然として心の空虚さを埋めることはできないでいました。そこで私たちは警察学校へ連れて行かれ、心の癒しのためのカウンセリングを受けました。人々は心から助けようとしてくれたのですが、私たちの多くは、十分なものを感じることができませんでした。こうして最後に、その母と娘、そして私たちなどをいれた六人だけがバスにのることになったのです。

私はこの親子のために何かをしたいととても強く感じました。私は静かに二人の方に近寄り、母親の腕に私の手をおいて言いました。「あなたが信仰心をお持ちかどうか分かりませんが、パットと私はあなたのために祈りたいと思います。」彼女は私の手を取って、「はい、私たちには信仰があります。昨夜大聖堂のミサに行きました。と言いました。この瞬間、私たちはこの母親との間に親密な関係を感じ取りました。そして彼女が信仰を持っている人を見つけて大変喜んでいるのがわかりました。私たちは少しだけ話しました。というのもすでに真夜中だったからです。それからホテルに着いてバスを降りる時、私たちがお役に立てるかどうかも明朝電話をしますと約束しました。

翌朝、私は彼女たちに電話をかけました。それはこれから当然出てくる実際的な問題について、誰が彼女たちを助けるか、気がかりだったからです。私は、何か役にたてるかどうか娘さんにたずねました。彼女は言いました。「考えても見てください。私たちは全く途方にくれているところです。何をすべきか全く分かりません。どうやって家に帰ればよいのか分かりません。帰りの飛行機をどうやって見つけたらよい分かりません。」受話器を置きながら、そっとしておいて欲しいという彼女の気持ちが伝わってきましたが、助けを必要としているのもたしかでした。パットは彼女たちの泊まっているホテルの支配人に電話をすればよいと言いました。ホテルの支配人は、犠牲者の親族が宿泊していることに気づいていませんでした。支配人はパットの電話に大変感謝して、その日に彼女たちが必要としているあらゆることの面倒をみるようひと、直属の避暑に仕事を任せました。実は彼もまた、事件で五人の友人を殺されてしまったのです。彼もそのために苦しんでいたのですが、そのことをパットに打ち明けてくれました。

その夜遅く、私たちがホテル戻った時、ドアのところに小さなメモがありました。

昨晚は何もしてあげられなかったのに、彼女たちはとても感謝して電話をしてきたことが書いてありました。次の朝早く、私たちは電話をかけて、ホバートを発つ前にお訪ねしたいと言いました。今度は、私たち彼女たちから喜んで迎えられました。ホテルの前で、パットと私はお互いの愛と一致を新たにして、部屋に向かいました。私たちがそこに着いてものの数分もたたないうちに、警官がやって来て、死亡者の身元確認をするために娘さんを連れて行きました。パットと私は七〇歳の母親の側にいようと申し出ました。ほとんど私がおしゃべりをして、パットはただベットのの上に腰をかけて居ました。彼は、女性二人がずっと話しているの、少々気詰まりに感じていました。けれども、彼は心の中でただそこにいることによって、彼女を愛そうと決意しました。母親はたくさんのお話をしました。そして、彼女と娘二人が想像もつかないくらい、どんなに親密であったかを話してくれました。パットはただ座って注意深く聞いていました。とうとう別れる時間がきて、私たちはすべてがうまくいくように心から願っていると、彼女に伝えました。すると彼女はパットの方を向いて言いました。「本当にあなたを愛しているわよ、パット。」パット自身、男性としてめったに自分自身の感情をあらわにすることなど思いもよらない家庭に育ったものですから、彼女の口から自然と出た心のこもった言葉に、圧倒されてしまったようでした。

メルボルンに帰って一週間後に、わたくしは合同葬儀に参列しました。教会は満員で、テレビ局も取材に来ていました。あの親子の姿を見つけましたが、近寄って話しかけるのがよいか、私にはいささか自信がなかったのですが、その時娘さんの方が私を見つけ、群衆の間を通り抜けてやって来ました。彼女は私の体に腕を回して言いました。「もしあなたがホテルの支配人に連絡して下さらなかつたら、私たちは到底うまくやっていけなかつたはずですよ。ただただ、そのことに感謝するばかりです。」再び母親の方が、あの日パットが与えてくれた愛にとっても感謝していると言いました。パットは、ほとんど何も話さなかったのですが、母親の方は本当に彼の愛を感じたのです。

後で私たちは次のように考えました。「多分これこそ、あの日私たちがポート・アーサーにいた理由だったのだ」と。

モーリン・コイン

フォコラーレ本部

〒168 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL. 03-5370-6424

FAX. 03-5370-3055

諸所の企画についてのご紹介

“限りある資源を大切に”の環境アセスメントへの協力のため、読者の方々へご参考になればと思いご紹介、掲載しておりました研究会・行事等のお知らせを下記のように簡略させていただきます。どうかご理解いただきますように。各企画に興味のある方、時間のゆるす方は、各々の所へ詳細をお問い合わせの上、ご利用、ご参加下さい。

I ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会)

場 所：〒177 東京都練馬区上石神井4-32-35 TEL.&FAX. 3594-2247

祈りの集い キリストと共に、キリストの内に祈る

紀元2000年に向かって…

「教会の心臓の中で私は愛になりましょう」 リジューの聖テレーズ

内 容：講話、祈り、お茶と質問の時間、引きつずき日曜日のミサ

日 時：毎月1回土曜日 午後2時～5時半（ミサ）

10月18日（土）若者と教会ーパリ世界青年大会をふまえてー
、11/15、12/20、'98/1/24、2/21、3/14

詳細は電話（18:00-21:30）、FAX、葉書で、祈りの係りまで。

II スズラン・ハウス

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細を知りたい方は、下記へ：

〒192 八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222 井口 貴志

III 風 の 家

指 導：井上 洋治 師（東京教区司祭）

〒169 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『^{フネマ}風』編集者

〒169 東京都新宿区西早稲田 3-5-10-101 Tel・FAX 03-3205-6923

詳細はお電話でお尋ね下さい。

IV 生命山カトリック別院

場 所：〒865-01熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

A 黙想会

指 導：クラウディオ神父

指 導：フランコ神父

B 一日静修

指 導：フランコ神父 日 時：月一回 9:30～15:00

祈りの集い：テーマ「ミサ」

期 日：10月9日（木）キリストと教会の奉獻ル

11月13日 (木) 感謝の祭儀

12月11日 (木) ミサにおける終末論

申込み：集いの5日前まで (東海林博子)

参加費：1,500 円 (含昼食代含む)

この他に個人、またはグループで、黙想等なさりたい方はいつでも上記へお申し込み、お問い合わせ下さい。御地よりの交通方法をお知らせいたします。

V 瞑想の家 東 光 庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師 (神言会)

場 所：〒166 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

詳細問い合わせは電話で。

VI リーゼンフーバー神父による研究会

①キリスト教入門講座 日 時：金曜日 18 : 45～20 : 30

場 所：聖イグナチオ教会ザベリオ聖堂

各会のテーマ

10/3 洗礼と堅信－イエスに結ばれて生きる

10/17 教会の成立と意味

10/24 人間としてのイエス－新しい人間像の基礎付け

10/31 御子としてのイエス－イエスの神との関係

②神学読書会 日 時：毎月第2・第4 (第5)水曜日 18 : 30～

場 所：SJハウス第5会議室 要申込み、定期参加

③聖書研究会 日 時：毎月第1・第3水曜日 18:30 ～20:00

場 所：S. J. ハウス第5会議室

日 時：木曜日 12:40 ～13:25

場 所：上智大学7号館 316号研究室

④坐禅会 日 時：月曜日 17:20～20:10 木曜日 18:00～20:30

場 所：クルトゥルハイム1階左の部屋

接心：関東 [日時] 10月31日(木)～11月3日(月)夕 * '98/2/21日(土)～22日(日) 17時

[場所] 秋川神院 一泊2400円 * 上石神井イエス会黙想の家 一泊5200円

⑤ミ サ：水曜日 17:10～18:00 場所：クルトゥルハイム1階小聖堂 (除4・16、4/30、8/6～9/10)

⑥黙 想：水曜日 18:00～18:30 場所：クルトゥルハイム1階小聖堂 (同上)

⑦祈りの集い：下記土曜日 13:30～16:00 場 所：S. J. ハウス第5会議室

、10月18日、12月6日、1998年1月10日、1月31日、2月28日、3月28日

⑧黙想会： 11月22日(土)10時～23日(日)午後、 1998年3月14日(土) 10時～15日(日)午後

一泊 4000 円程度

⑨アガペ会 : 説明会と集い 下記の日 (13時30分～ 20代～40代の信者)

10月4日(土)98年1月18日(日)

場所 (土) S.J.ハウス第5会議室 ②(日) かつらぎ会館

◎ 以上、詳細を知りたい方は下記へお問い合わせ下さい。

102 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス TEL.03-3238-5124

5111(伝言)

Ⅶ 三位一体の聖体宣教女会 「祈りの家」

場 所：〒189 東京都東村山市久米川町1-17-5 TEL.0423-93-3181 FAX 93-2407

黙想会

聖書で祈る

A)指導： 雨宮 慧 師 (東京教区)

B)指導： 奥村一郎師 (カルメル会)

対象：キリスト信者 *救道者の若い女性

対象：修道女

期日：10月25日 (土) 5:30P.M.～

期日：12月26日 (金) 5:30P.M.～

26日 (日) 4:00P.M.

1月4日 (日) 9:00A.M.

○「十字架の使徒職」の集い

洗礼による祭司職を生き、叙階された司祭のために祈る信者の集い。

例会：毎月第二金曜日 14:00～15:30 於「祈りの家」

Ⅷ マリアの御心会 (明泉会)

場 所：〒160 東京都新宿区南元町6-2 TEL.03-3351-0297

◎マリアの御心の集い

A. 黙想会 担当：シスター今村和子

①聖書深読黙想会 (主日の福音を中心に) 隔月第2日曜日 10:00a.m.～5:00p.m.

11/9, 1998, 1/11, 3/8

②黙想と祈りの集い (テゼの歌をうたいながら) 隔月・日曜日 4:00～6:00

10/19, 12/7(5:00～7:00), 2/8

B. 聖書会 担当：シスター今村和子

C. ①新約聖書 (ヨハネ福音書) 毎月第1月曜日 10:00a.m.～12:00

②聖書通読講座 (イザヤ書から) 4/10～ 木曜日 6:30～8:30p.m.

Ⅸ 聖心会黙想の家

場 所：〒410-11 静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax.0559-92-2120

A 祈りの集い (奇数月)

④期 日：11/29(土)15:00～30 (日)15:00 テーマ：未 定

講 師：雨宮 神父 (東京教区司祭)

⑤期 日：1998/1/31(土)15:00～2/1(日)15:00

テーマ：いのちの深呼吸・・・ テゼの歌を歌いながら

申し込み先：上記黙想の家 Sr. 足立万利子(FAX又は葉書)

B ミニ黙想会

カルメル会の星野正道神父様によるミニ黙想が、下記の日に行われます。

場 所：聖心会若宮共同体 〒165 中野区若宮3-9-4 TEL.03-3337-3291

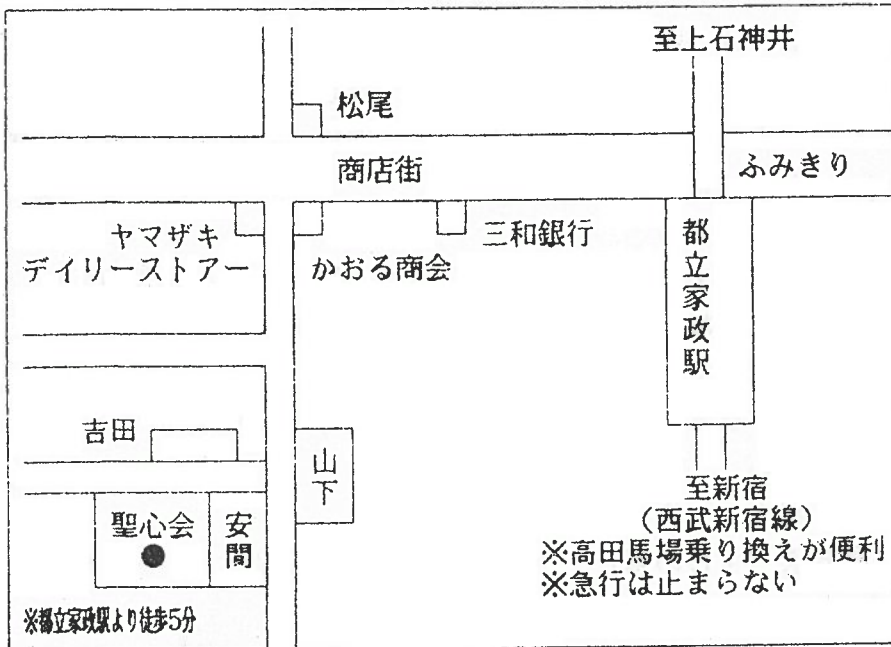
日 時： 9月30日(火) 10時半～3時まで(ミサ)あり

11月 4日(火) 同 上

1998年1月27日(火) 同 上

会 費：1500円(含お礼と昼食)

問合わせ：Sr. 交野(聖心会若宮共同体 (03-3337-3291))



なお、10月3日(金) 18時ミサ(歌ミサ)後、小さき花聖テレジアの100年を祝い、四谷聖イグナチオ教会にて、ホアン・カトレット神父(イエズス会)による講話が行われます。皆様是非ご出席ください。